も奇怪なものであるすれば我々の為。それは、貴會の謂ゆる「官許党」への事実上の屈服でなければ、貴會が無産大衆党を排撃し讒誣したことの非を悟り改めたことの實證でなければならぬ。

二、貴會は、一路結党に邁進することと、準備會のまゝで無條件的に日労党乃至無産大衆党と「合同」することとの間には、何等の矛盾もないと主張し、二つの努力が相容れないものと考へるのは「機械的」な解釋だといふ詭辯を弄してをられる。しかし、結党を後廻しにして先づ合同に向つて全力を注ぐことと、合同を後廻しにして先づ結党に向つて全力を注ぐこと、——この明確に異る二つの努力が方向の間に何らの矛盾を感じないといふのは、貴會が、その何れに向つても全力的に努力する意志がなく、絶えず二つの方向の間を動揺する日和見的態度で満足してをられるからにすぎない。絶えず動揺することを本質とする日和見主義者が、自己の動揺に関して矛盾を感じないのは當然である。だが、それが「機械的」であるとないとを問はず、貴會の方針の少しも一定せざることが、甚だしく労農大衆を迷はせ、戦線の再建を遅延せしめて居る事実をいかんともすることが出来ない。

三、貴會は、結党に向つて努力何ら努力もなし合同は早い方がいゝから、準備會のまゝでも合同すると[illegible]辯解し、且つ、新党準備會は「労働者農民の組織」であるから他の無産政党との合同は當然であるといふ詭辯を積み重ねられる。だが「労働者農民の組織」であるから言つて、直ちにそれと無産政党との合同が可能であるならば、合同運動ほど容易なものはあるまい。組織上の明確な形態を備へた政党相互の間でさへ、合同は決して容易でなかつた。しかるに、明確な組織形態もない準備會そのものによる「合同」が可能なるかの如き幻影を少しでも労農大衆に與へることは、労農大衆を欺く外に何のとりえがあらうか。合同は早い方がよいといふことを名として、合同のための前提條件たる合法政党の組織を抜きにした合同を云々することは、口に合同を唱へて合同への努力を怠るものにすぎない。合同への真の努力は、先づ合同のための條件をつくること、即ち合法政党をもつことに向けられねばならぬ。加ふるにまた、明確な組織も統制もなき準備會の形においと他党と「合同」せんとすることは、事實において「合同」ではなく、合流に過ぎない。合同は早い方がいゝといふ口實の下に、實質上の合流を企圖することは、決して統一戦線運動における左翼的な立場ではあり得ない。

我々は貴會の回答を讀んで、以上の如き見解に到達せざるを得なかつた。そして、我々は、單に貴會の回答によつて何等教へられるところがなかつたばかりでなく、却つてますます貴會の見解の誤謬を明白に知り得たことを遺憾とするものであります。

だが、貴會は、無産大衆党排撃の誤謬と、準備會による即時無條件合同の誤謬とを清算することを拒まんとしてをられるにも拘らず、最近にいたつて、従来の即時無條件合同の方向から、即時結党の方向への轉向を試みてをられることは、事實において、我々の主張に追随されるものであることをよろこばずにはをられない。